# D-Bike +LBS
ディーバイク +エルビーエス

## 取扱説明書

目次



## 1 定義とシンボルマークについて

この取扱説明書では以下のような内容が「警告」、「注意」として記載されています。

**身体に関する危険**
守らないと人身事故が発生したり、創傷や火傷の可能性がある。

注意 **財物や商品本体に関する危険**
守らないと財物や商品本体に損傷の可能性がある。

# ② 安全上の注意事項

**対象年齢：２歳から**
**制限体重：20kg まで**
**身長目安：85cm から**

## 保護者の方へ　必ずお読みください。

本商品は、幼児用乗り物です。
安全のため、必ず下記の事項を守ってください。

ひにちかづけない

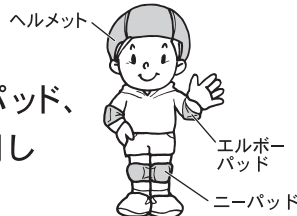
おとなといっしょ

みずにぬらさない

## ⚠ 警　告

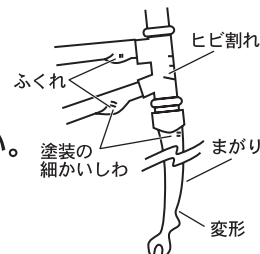
- 本商品でお子様が遊ぶ場合､保護者の方が必ずそばについて安全を確保してください。
- 公道では使用しないでください。
- 平らな場所で使用してください。
- 使用が禁止されている場所で使用しないでください。
- 転倒する危険がありますので､注意して走行させてください。
- 雨の日､路面が湿っているときは使用しないでください。ぬれた路面ではタイヤが滑りやすくブレーキの効きが悪くなるので危険です。
- タイヤの周囲や回転部には､手や足を入れないでください。
- 走行速度は 5km/h 以下を守ってください。
- 2人乗りなどの危ない乗り方は絶対にしないでください。
- 片手運転､手放し運転はしないでください。
- 手やハンドルに荷物を引っかけたり､ペットを連れて走行しないでください。
- 夜間は乗らないでください。
- ブレーキ調整が必要な場合は､必ず自転車店へ依頼してください。
- ブレーキワイヤーが切れた場合は直ぐに自転車店で取り替えてください。
また､安全のため１年毎の交換を推奨します。

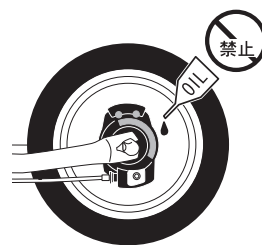
- ヘルメット､エルボーパッド､ニーパッドは必ず着用し走行してください。

ヘルメット
エルボーパッド
ニーパッド

- 危険な場所では､絶対に使用しないでください（坂道､凸凹面､段差の激しい路面､溝の近く､障害物のある場所 など）。

- 樹脂製サンダルやつま先やかかとが出ている靴では走行しないでください。
- 必ず靴を履かせてから使用してください。裸足で使用すると隙間等で思わぬケガをする恐れがあります。
- スカートやマフラーなどの衣類はタイヤに巻き込まれる恐れがあります。走行中は着用しないでください。
- 本商品(ディーバイク)の用途以外には使用しないでください。
- 自転車､オートバイ､自動車などで引っ張って使用しないでください。
- 傘やステッキ､釣竿などを車体に差し込んだり､吊り下げたりしないでください。
- サドルやハンドルは､限界標識の刻印が見える状態では乗らないでください。

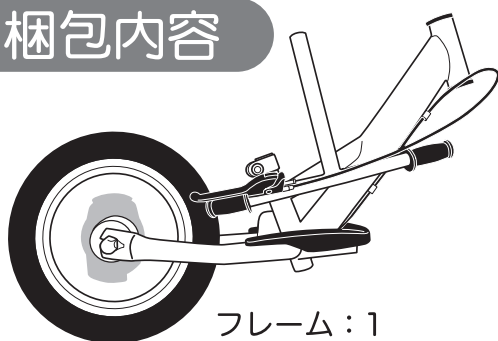
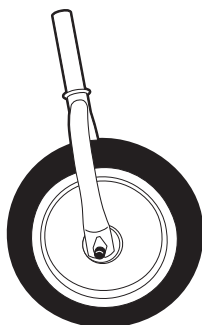
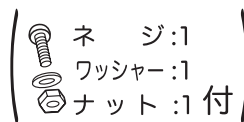
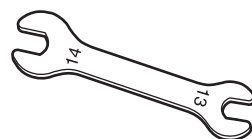
限界標識が
見えないこと

- ブレーキレバーが回ると危険ですので､ゆるいときはネジを十分締め付けてください。
- 変形やひび割れ､ネジのゆるみなどの異常があるときは乗らないでください。

●小さな部品があります。組み立てる際、誤飲の危険がありますのでお子様がそばにいない状態で行ってください。

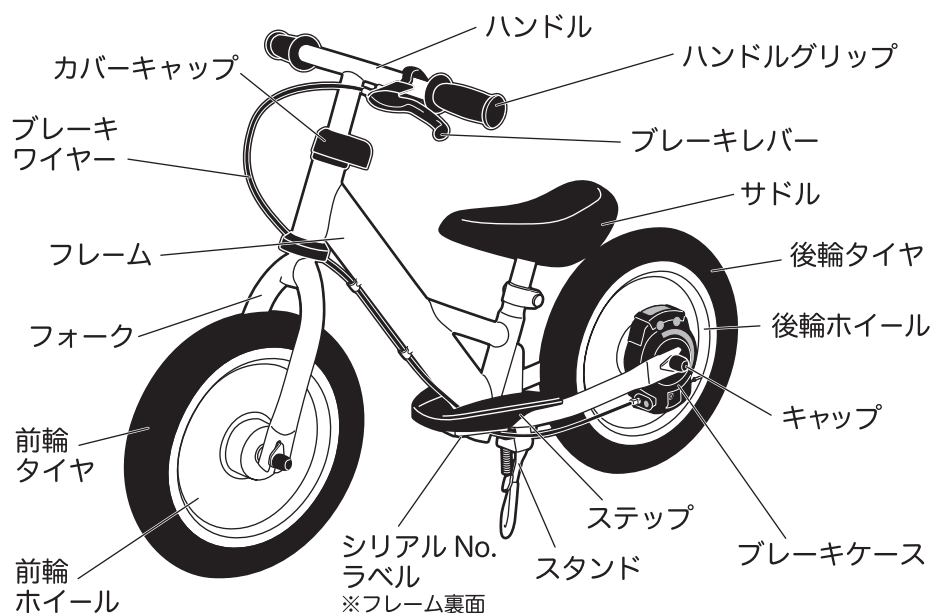
●掃除をするときに絶対にブレーキ内部に油を付けないでください。

●長い間の使用中にネジがゆるむことがあります。お手数でも締め直してください。

●使用前には必ず手入れ、点検を行ってください。故障及び破損したまま使用しないでください。

**注意**
- ●屋外で使用された後は、直射日光を避け、雨ざらしにしないでください。
- ●火気のあるところ、高温の場所には近づけないでください。
- ●砂場や水たまりで使用しないでください。

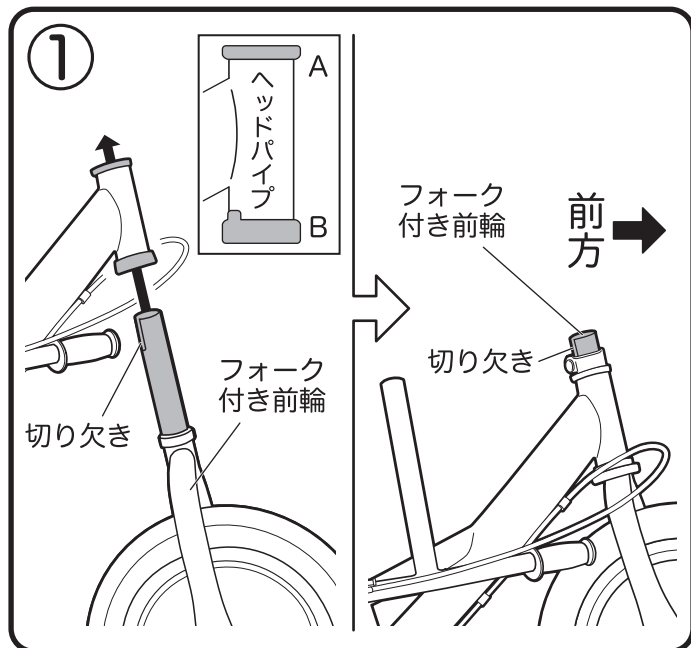
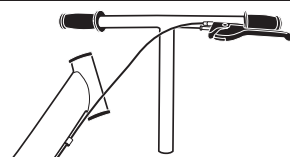
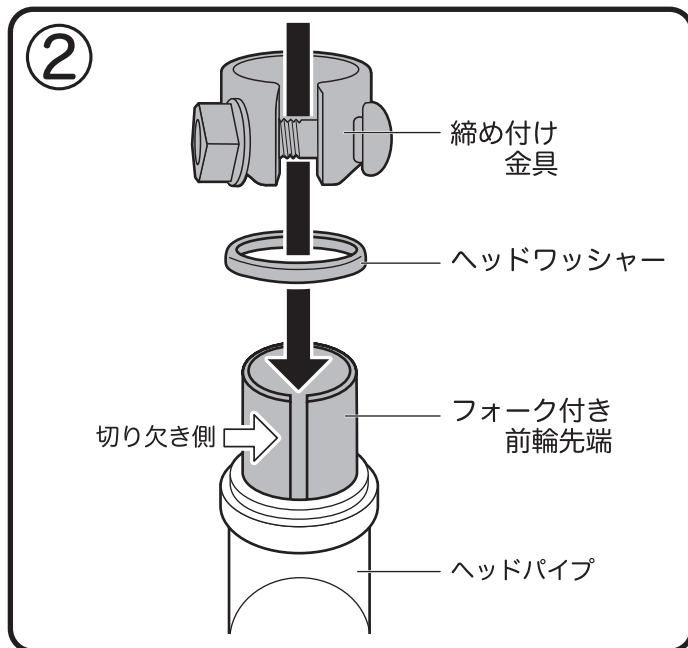
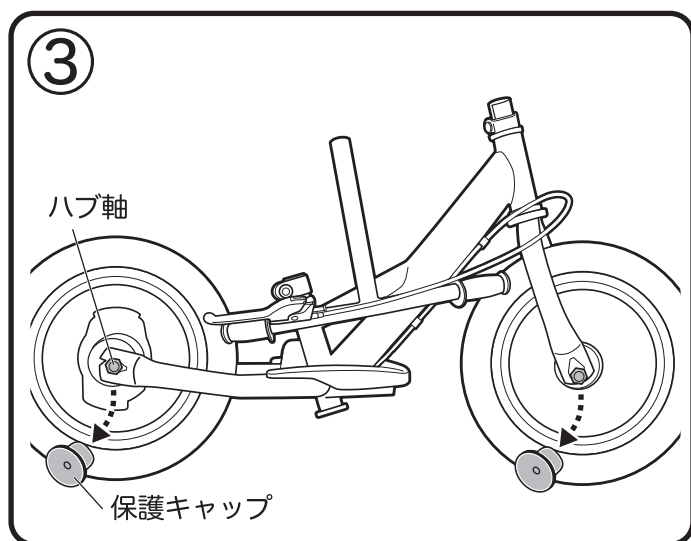
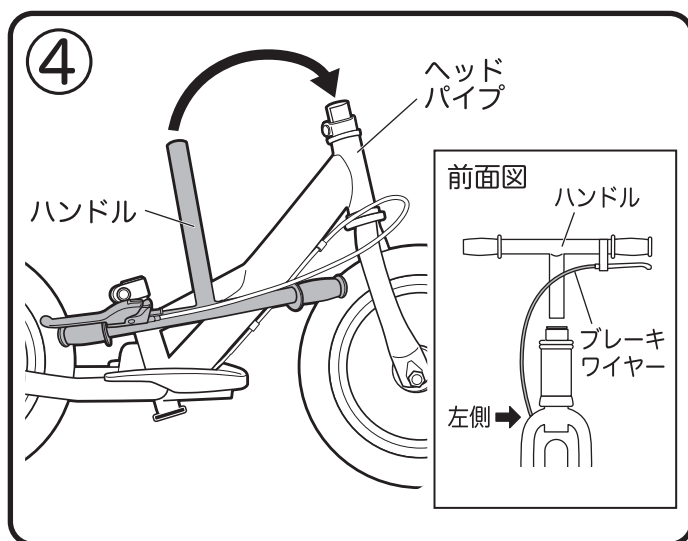
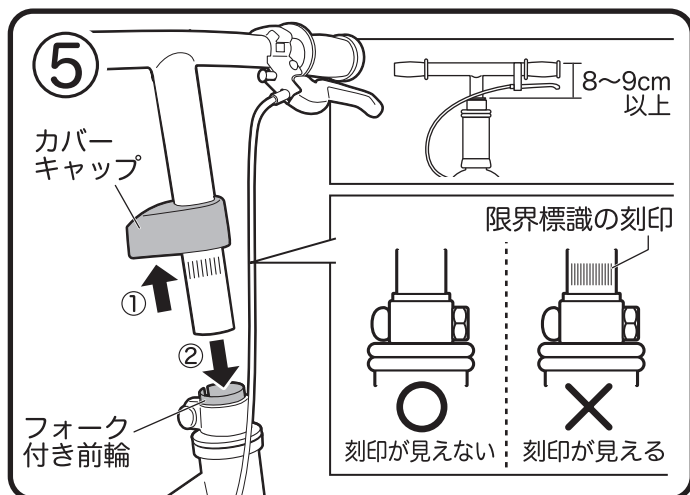
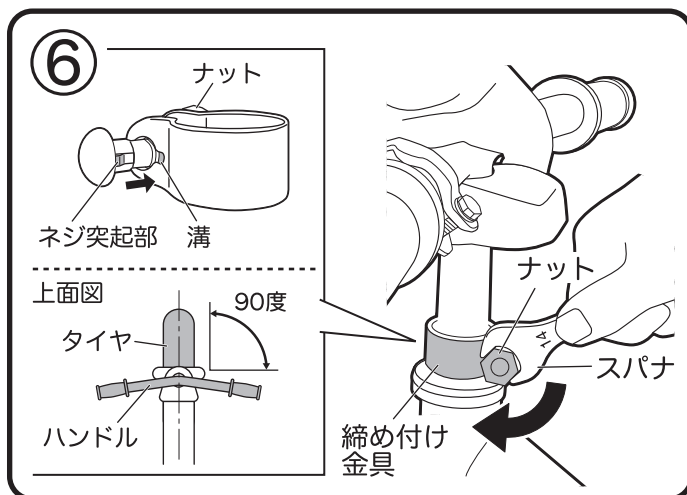
## ③ 梱包内容

※タイヤの材質の特性上、輸送時の衝撃等で表面に凹みが見られる場合がありますが、問題なくご使用いただけます。

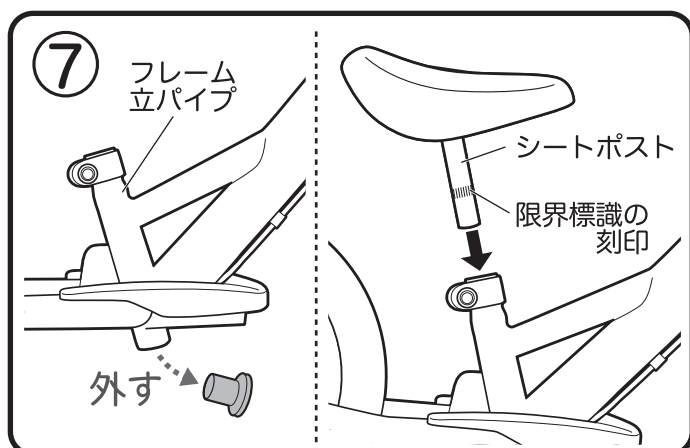
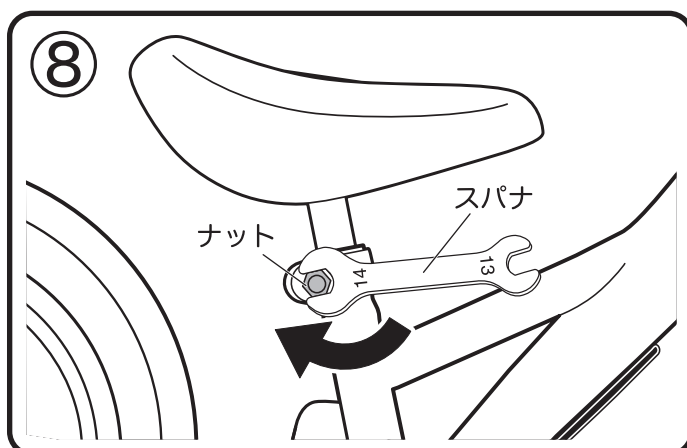
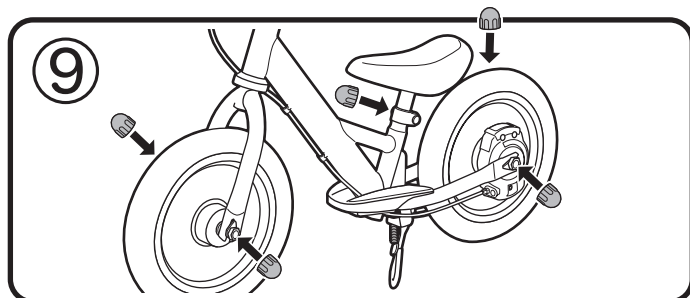
## ④ 各部の名称

【材質】

| 部品 | 材質 |
|---|---|
| フレーム | スチール |
| ハンドル | スチール |
| フォーク | スチール |
| ハンドルグリップ | 塩化ビニール(PVC) |
| カバーキャップ | ポリプロピレン(PP) |
| タイヤ | EVA 発泡(EVA) |
| ホイール | ポリプロピレン(PP) |
| ブレーキケース | ポリアセタール(POM) |
| ステップ | ポリプロピレン(PP) |
| スタンド | スチール |

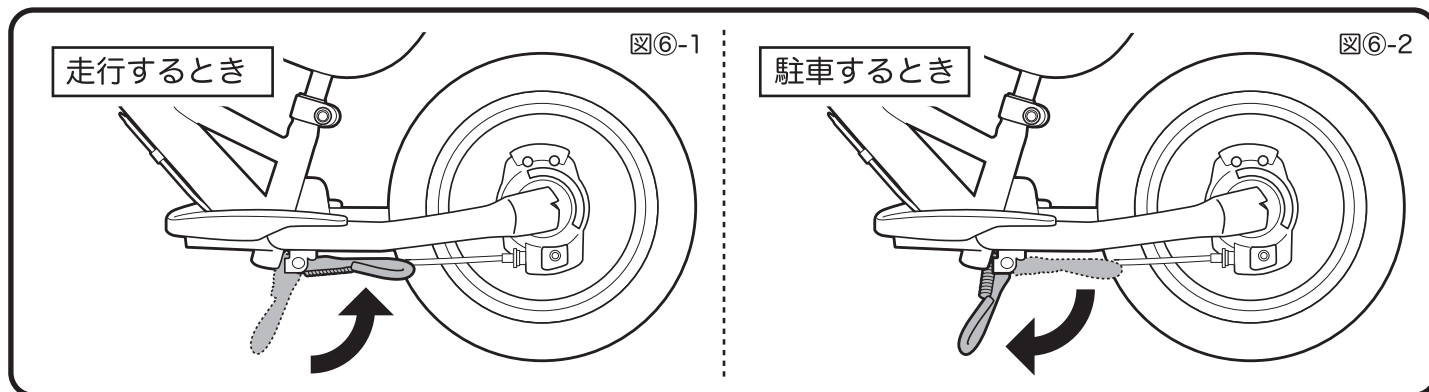
#  組み立て方法　・組み立ては保護者の方が行ってください。

●本商品に付属しているスパナ ( 工具 ) は簡易工具です。市販の工具 (14mm) をお持ちの方はそちらの工具での組み立てをお奨めします。なお、付属している工具以外で締め付ける場合は締め過ぎに注意してください。

箱から出したハンドルはねじったり、引っ張ったりしないでください。
ブレーキ調整の不具合の原因になる恐れがあります。

・A、B の部品がヘッドパイプに取り付いているか確認してください。
・フレームのヘッドパイプにフォーク付き前輪を差し込みます。このとき、フォーク付き前輪は切り欠きが後ろになるように組み付けてください。

・フォーク付き前輪先端がヘッドパイプの上部より出ているのを確認してください。
・突き出たフォーク付き前輪先端にヘッドワッシャーと締め付け金具を差し込みます。
・切り欠きの方向に注意してください。

・前後のハブ軸に付いている保護キャップを外します。

・ハンドルをヘッドパイプ側に持ってきます。
・前から見たときに、ブレーキワイヤーがハンドルの手前にくる位置にセッティングしてください。
・ブレーキワイヤーが前面から見てヘッドパイプの左側にきていることを確認してください。

・ハンドルにカバーキャップを差し込みます。
・ハンドルを限界標識の刻印が見えなくなるまでフォーク付き前輪先端に差し込みます。
・ハンドルの高さを８～９ cm 以下にするとブレーキの効きが悪くなることがありますので、ご注意ください。

・ネジの突起部が締め付け金具の溝に入っていることを確認してください。
・上面から見てハンドルと前輪タイヤの角度を直角 (90 度 ) に合わせ、締め付け金具のナットをスパナ (14mm 側 ) で締め付け、カバーキャップを被せます。
※スパナを持つ手が痛い場合はスパナにタオル等を巻いてください。
・ハンドル固定にゆるみがないか確認してください。

●ハンドルをフォーク付き前輪に差し込むときに、無理な力が加わるとハンドルの塗装が剥がれることがあります。

・フレーム立パイプの下部に付いている保護キャップを外します。
・サドルをシートポストの限界標識の刻印が見えなくなるまでフレーム立パイプに差し込みます。

・サドルの高さは、お子様がサドルにまたがったときに両足が地面にしっかりと着き、膝が軽く曲がる程度に合わせます。
・ナットをスパナ (14mm 側 ) で締め付けます。
※スパナを持つ手が痛い場合はスパナにタオル等を巻いてください。
・サドル固定にゆるみがないか確認してください。

・5 カ所のナットにキャップを取り付けます。
・車輪が円滑に回るかを確認してください。
※取り付けが固い場合は、お湯 (50℃位 ) にキャップを 3～5 分浸けてください。その後、水気を取りナットに取り付けます。
※キャップを取り外すときは、キャップとフレームのすき間にマイナスドライバーを入れて外してください。マイナスドライバーでフレームを傷つけないようにご注意ください。

**▲警 告** ●小さな部品があり、誤飲の危険があります。組み立て作業はお子様がそばにいない状態で行ってください。

## ⑥ スタンドの取り扱い

・走行するときは必ずスタンドを足で水平まで上げてください。

・駐車するときは必ずスタンドを足で垂直まで下げてください。

**⚠警 告** ●スタンドを手で動かさないでください。ケガをする恐れがあります。

## ⑦ ハンドルとサドルの調節方法

●お子様の身長に合わせて、ハンドルとサドルを調節してください。

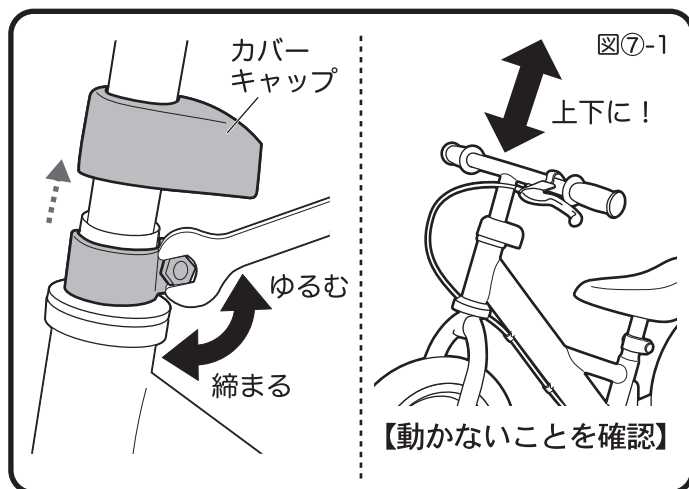
**⚠警 告**

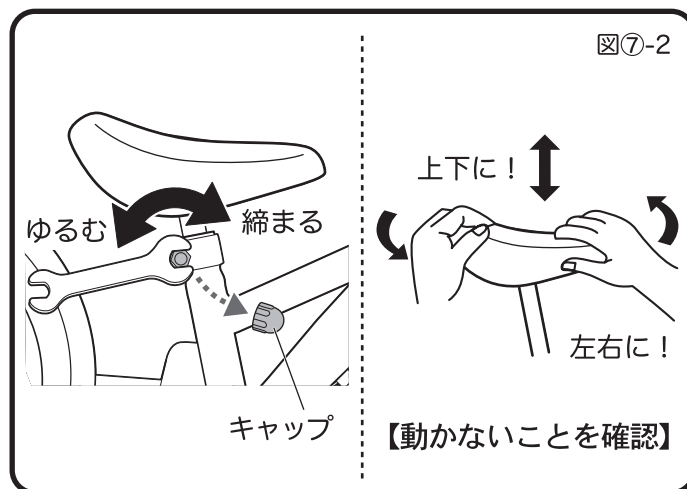
●ハンドルパイプ、シートポストにある限界標識の刻印以上にハンドル、サドルを引き上げないでください。限界標識の刻印以上に引き上げると、ハンドルパイプ、シートポストが曲がったり折れたりして大変危険です。
●ハンドル、サドルの調節は保護者の方が行ってください。
●ナットを締め付けるときは保護者の方が行ってください。

限界標識が
見えないこと

### ●ハンドルの調節方法

図⑦-1

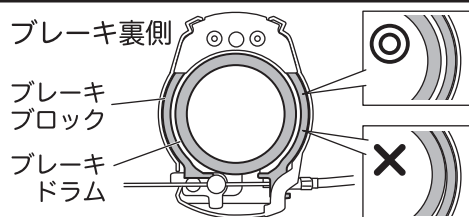
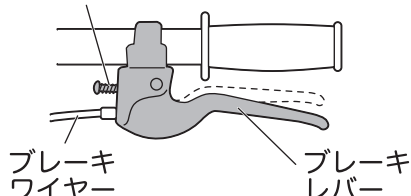
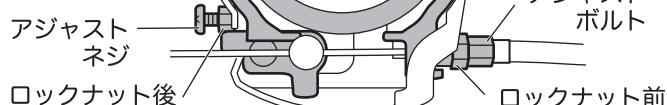
カバー
キャップ
ゆるむ
締まる
上下に！
【動かないことを確認】

・カバーキャップを上げ、締め付け金具のナットをゆるめるとハンドルが上下に動きます。
・お子様の身長に合わせて高さを決め、締め付け金具のナットを締め付けて、カバーキャップを被せます。
・ハンドルを両手で上下に動かし動かないことを確認してください。

### ●サドルの調節方法

・サドルの下部にあるキャップを外し、ナットをゆるめるとシートポストが上下に動きます。
・お子様の身長に合わせて高さを決め、ナットを締め付けて、キャップを付けます。
・上下、左右に動かし動かないことを確認してください。

## ⑧ ブレーキ調整方法 ※ブレーキ調整は必ず自転車店で行ってください。

●LBS(ライト・ブレーキ・システム)はアイデスオリジナルの特殊ブレーキです。
ブレーキ調整の際はこちらの取扱説明書を自転車店へご提示ください。

### ▲警 告

下記に当てはまる場合は、自転車店にご相談ください。
ブレーキ各部は説明書記載以外の調整を行わないでください。
●ブレーキブロックが常にブレーキドラムに当たっている場合。
●ブレーキの効きが悪くなった場合。

・調整ネジをドライバーで回して調整します。
・ブレーキレバーの開きは適宜調整してください。

・長期間使用しますと、ブレーキワイヤーの伸び等によりブレーキの効きが悪くなります。その場合、前後のロックナットを一時ゆるめた後、アジャストボルトとアジャストネジを調整し、ブレーキドラムとブレーキブロックの隙間を0.5～1mm程度にします。
・前後のロックナットを締め直します。

**ブレーキドラム**

ブレーキドラムは消耗品です。ブレーキワイヤーを調整しても効きが改善されない場合はブレーキドラムの摩耗の可能性がありますので、交換が必要です。
※消耗品については、お客様相談室にお問い合わせください。

## ⑨ 乗車前の点検事項

| 点検項目 | 点検方法 |
|---|---|
| □ ネジのゆるみ | 本体を20ｃｍくらい持ち上げて地面に落とし、雑音がしないか調べてください。雑音がした場合、どこかのネジがゆるんでいる場合があります。特に車輪、ブレーキのネジがゆるんでいると事故の原因になります。 |
| □ 車輪の固定 | 車輪を前後左右に動かし、動かないか点検してください。特に前車輪の固定がゆるいと段差等の乗り越えのとき脱輪してしまう危険があります。 |
| □ ブレーキの制動 | ブレーキレバーを引いたまま、サドルを上から押しながら車体を押し進めて後車輪が回転しないか調べてください。効きが悪いとき、またはブレーキレバーの遊びが大きいときはすぐに自転車店で点検を受けてください。<br>※ブレーキをかけると摩擦音がすることがありますが、ブレーキの特性上のもので異常ではありません。<br>※後輪を回転させるとブレーキ音がすることがありますが、構造上のもので異常ではありません。 |
| □ ハンドルの固定 | ハンドルを両手で上下に動かしてみてください。また、前車輪を股にはさんで固定しハンドルを左右に回してみてください。いずれの動作をした際にハンドルが動いてしまうと転倒の恐れがあり、大変危険です。<br>動いてしまう場合は6ページ「ハンドルとサドルの調節方法」の項目の説明通りに締め付けてください。 |
| □ サドルの固定 | サドルを上下や左右に両手で動かしてみてください。動く場合は6ページ「ハンドルとサドルの調節方法」の項目の説明通りに締め付けてください。 |

## ⑩ 廃車の注意事項

本商品を廃車するときは、各自治体のゴミ分別や回収ルールにしたがってください。